



□本號口繪は信州青木湖畔の丘陵より見たる秋景にして、原圖はワツトマン四ツ切大、

正午頃より三時間程の寫生に御座候、別項

『秋のたび』御參照ありたく候

□圖案法概要は著者多用のため一二回休載致すべく候

□臨時増刊『尾瀬沼』は來る十八日を以て發行すべく繪畫は石版四五葉、木版數個を挿入致すべく候

□本號にて前金切に相成候御方は十五日頃迄に御拂込下されたく候、なほ、前號にも申上置候通り、本誌は時により發行日五六日前に發送致候事有之候間、前金御拂込は可成御早く御願申上候

□前金切のせつは、袋紙に『切』と朱書致置候、御懇意の間柄のほかは次號の發送を差控候間御注意下されたく願上候

□本誌第一より十迄及十七十八二十を除き他は少々殘本有之候、十部以上一時に御入用の方へは一部送料共金拾錢の割にて御注文に應すべく候但三十九號以下は定價通り

申受候

□本誌特別讀者は臨時増刊號分として『みづゑ』一冊の代價を御序のせつ御拂込置下されたく候

奈良振美會

同會にては今回水彩畫講習部を設けられたり、規則の概要左の如し

○學科は墨繪、パステル、水彩畫及講話○授業日は毎週土曜日午後、日曜日午前三時間宛修業年限は二ケ年○記名料五十錢、授業料八十錢但學校長の證明を有する學生は授業料半減○地方講習生の爲めの寄宿料は凡そ一日十八錢内外但自炊せんとするものは會費一ヶ月八十錢を要す○講師は都鳥英喜(毎月一回出張)松原三五郎(時々出張)久保田安太郎、奥山位重諸氏、以上規則書を要する人は奈良市東寺林町奈良振美會繪畫講習所へ宛て申込まるべし
なほ、同會主任島津氏は、奈良に寫生のため來遊さるゝ學生の爲めに、極めて低廉の費用を以て同會寄宿部に宿泊せしむべしとの事なれば同地にゆかるゝ人は、タトエ寄

宿せざる迄も、宿泊所其他同氏に御相談あれば極めて便宜多かるべし

近事

△日本水彩畫會九月例會は全月二十七日研究所に於て開かれたり午前は大下氏の『自然の約束』といへる講話に次て眞野氏の透視畫法講義『水に映れる影』あり、午後より研究生の出品畫に對して河合、石井、大下三氏の批評あり、終つて互選の結果一等赤城泰舒氏、二等鈴木錠吉氏、三等望月省三氏當選せり、夏期休暇中の作品を出されたため陳列の水彩畫三百七十點、何れも汗を流して熱心寫生せしものゝみなりし、茶話會の席にては石井氏の大福の戶外寫生について所感といへるお話ありて薄暮散會したり
△同研究所秋期寫生會は本月中旬開催さるべく場處は多分相摸川上流にして往復三日間の豫定なりと
△松原三五郎氏主催者となりて本月二十五日より大阪に於て洋畫展覽會あり、東京諸大家の出品も多數あるべしと